



九州漁業調整事務所広報ページ よこわ



～統計資料を見てみよう～



九州の漁業を統計の視点から見てみよう

農林水産省HPでは、農林水産業に関する様々な統計資料が公開されています。

今回は「令和6年漁業・養殖業生産統計（概数値）」を用いて、九州全体での漁業生産量とシェア率（※）をランキング化し、九州の漁業について分析してみます。

※シェア率：九州の漁業生産量が全国漁業生産量に占める割合。
養殖魚は（養殖）と表記。また、内水面の漁業生産量も含む。

漁業生産量では”さば類”がトップ

さて、九州の漁業生産量が多い魚でランキング化した場合のベスト5はこうになります。

		漁業生産量	シェア率
1位	さば類	(107,100 t	42%)
2位	まいわし	(84,100 t	13%)
3位	まあじ	(50,300 t	55%)
4位	うるめいわし	(48,700 t	71%)
5位	かつお	(33,200 t	14%)

さば類の漁獲量は全国で
約256,000 t!

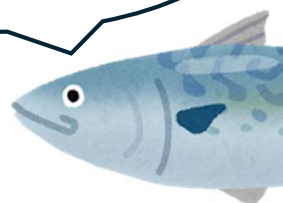
島根、鳥取、宮城、岩手、茨城
等で全国的に漁獲されているよ!

ということで、漁業生産量では、”さば類”が1位となります。
さば類はまさば及びごまさばを指します。

シェア率も、九州で全国の漁業生産量の約4割を漁獲しており、
いかに九州のさばが日本の食卓を支えているのかがわかります。

ちなみに、さば類だけで九州の漁業生産量（471,600 t）の22%を
占めており、その約8割が長崎県で漁獲されています。

まいわし、まあじ、うるめいわしの漁業生産量についても、長崎
県での漁獲が九州全体の6～8割を占めており、長崎県の漁業の
規模の大きさが伺えます。



シェア率で見るとかんぱち（養殖）がトップ

続いて、シェア率で見ると以下のとおりになります。

	シェア率	漁業生産量
1位 かんぱち（養殖）	（79%	200 t）
2位 うるめいわし	（71%	48,700 t）
3位 むろあじ	（64%	10,100 t）
3位 ぶり（養殖）	（64%	700 t）
5位 うなぎ（養殖）	（62%	10,000 t）



▲ カンパチ
ブリ属の魚で、出世魚。
天然魚は高価だが、養殖魚は
お手頃な値段で入手可能。
（出典：写真AC）

シェア率では**”かんぱち（養殖）”**が一位となります。

ぶりやひらまさとよく似た魚で、お寿司やお刺身などとして見かけることも多いかと思います。

また、シェア率のランキング全体を見ると、養殖魚が多くランクインしています。

養殖は特に宮崎県・鹿児島県で盛んに行われており、この2県だけで全国の養殖生産量のおよそ33%を占めています。

かんぱち（養殖）も、その多くが鹿児島県で養殖されています。

漁業生産量、シェア率ともに高い”うるめいわし”

ここまで、九州の漁業生産量とシェア率のランキングを見てきましたが、その両方にランクインした魚種があります。

それが**“うるめいわし”**（漁業生産量48,700 t, シェア率 71%）です。

うるめいわしは写真のとおり、大きな目が特徴的な魚で、「めざし」に加工されているのをよく見かけるかと思います。
また、お刺身で食べても絶品です！



▲ 脂瞼（しけん）が発達しているため、目がうるんだように見えるのが名前の由来。
（出典：写真AC）

うるめいわしが実は、九州で多く漁獲されており、かつ、シェア率も高い魚種であるという点は、意外と知られていないのではないのでしょうか。

お店で魚を見かけた際は、産地にも注目してみて、九州の漁業に思いを馳せながら味わってみてはいかがでしょうか？

